

使用済燃料の取り出し

使用済燃料とは？

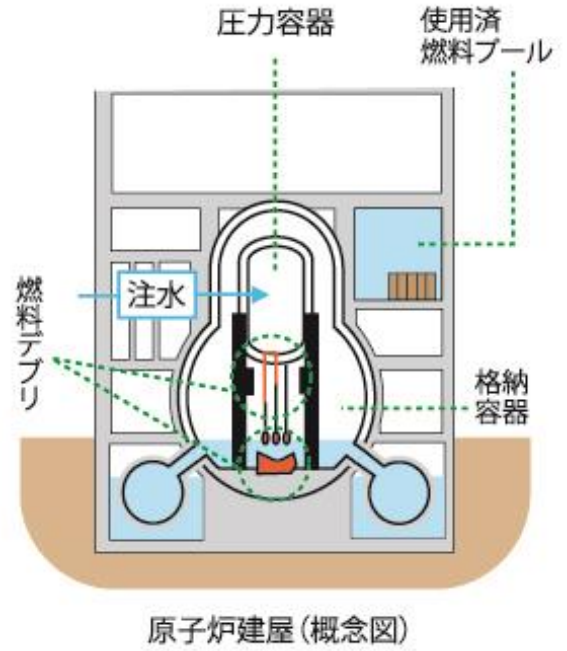
原子炉で発電に使用された燃料を「使用済燃料」と呼びます。

福島第一原子力発電所の各号機では、使用済燃料がプール内に貯蔵されており、それらを取り出すための作業が進められています。

使用済燃料プール内の燃料体数

2019年12月現在

号機	1号機	2号機	3号機	4号機
燃料体数	392	615	531	0

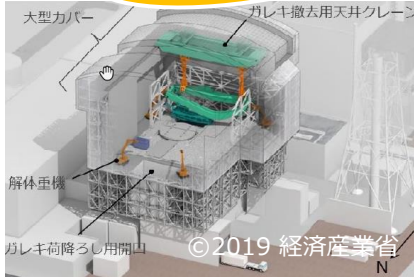


使用済燃料の取り出し状況

1号機

2027~28年度
取り出し
開始予定

信頼性の高いダスト飛散対策やより慎重な作業が必要であるため、大型カバーを設置する工法を採用。



2号機

2024~26年度
取り出し
開始予定

ダスト飛散をさらに抑制するため、建屋を解体せず、建屋南側からアクセスする工法を採用。



3号機

3号機では建屋上部を覆うカバー設置が終了しました。2019年4月から使用済燃料の取り出しが開始され、2020年度内の取り出し完了を目指しています。

設置開始 2017年7月31日



取扱機設置 2017年11月12日



設置完了 2018年2月21日



2019年4月
取り出し開始

4号機

福島第一原子力発電所の4号機は、事故当時定期検査中であり、すべての燃料がプール内にありました。プールの水位低下はなく、燃料の損傷はありませんでした。容器内で燃料が溶け出していません。

2014年12月にすべての燃料について、共用プール等への移送が完了しています。

2014年12月
取り出し完了

